

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700095
法人名	医療法人 蒼風会
事業所名	高齢者グループホーム りんどう
所在地	鹿児島県南九州市川辺町平山6910番地 (電話) 0993-56-4976
自己評価作成日	平成23年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の精神科病院や協力医療機関との密接な連携の下、健康的に生活が出来るグループホームであると思います。立地している場所は、市役所、消防署がすぐ近くにあり連携や有事の際の協力をもらいやすく、また、商店街も近いため、容易に入居者と買い物に行く事が出来、ご近所関係を築くことが出来ます。建物は段差が無く、面積的にも広いため、車椅子や歩行器を使用するなど身体機能が低下した際にも対応が出来る構造となっています。居室には洗面所とトイレが設置しており、生活の利便性と心身の機能維持につながっていると思います。職員は、入職後に介護福祉士の資格を取得するなど、向上心があり、お互い切磋琢磨しながら、利用者の心に寄り添うケアとは何かということを考え、ケアを提供するよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

- ・当ホームは、市役所や消防署・商店街が近くにあり利便性の高い生活環境にある。建物も広く全館バリアフリーになっており、中庭には花壇や菜園がある。居室は、すべての部屋にトイレや洗面所が備え付けられており、利用者が落ち着いてゆったりと生活している。
- ・母体法人の医療機関が近くにあり、医師の往診等、連携が取れており、緊急時に即刻対応ができるので利用者や家族にとって安心できる環境である。
- ・職員も厚く配置し、利用者が毎日入浴できるように準備がしてあるなど、利用者の立場に立った支援を心がけている。

【事業所の工夫点】

- ・中庭の菜園では野菜などを利用者と一緒に栽培し、食材購入や買い物も一緒に出かけるなど、利用者の楽しみとなるよう支援がされている。
- ・防災関係では、地域住民3名が自動通報装置に登録しており、ホームの2階が法人職員の社宅で、緊急時の対応ができるようになっている。
- ・ホームが地域の自治会に加入し、地域の住民が遊びに来たり、近くの商店で買い物をするなど、地域とのつながりを大事に交流を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	母体法人の理念と事業所の理念があり、ホール、職員トイレに掲示している。	法人理念「つながりがやすらぎ」を事業所内に掲示してあり、パンフレットにも載せている。理念をもとにしたケアの行動指針を話し合い、理解を深め日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板のやりとりや、なるべく近隣の商店で買い物をするようにしている。隣近所の方々との接点は少なく、当事業所の理解は十分とは言えない。	ホームが地域の自治会に加入しており、地域住民が遊びに来たり、近くの商店で買い物をするなど、地域とのつながりを大事にしている。自動通報装置には、近隣住民も登録しており、地域からの応援がもらえるようになっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	管理者は、南九州市徘徊SOSネットワーク会議に、グループホーム代表として参加している。地域の人々に向けて生かしているかは十分とは言えない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、市福祉課職員、家族代表の参加の下、定期的開催している。事業報告が主だが、重要事項の説明文に関する意見を頂き改訂に至った時もあった。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。家族や民生委員・市担当者・病院職員が出席し、事業報告や外部評価の結果について報告し、意見交換を行いサービスの質の向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や必要時に、連携をとっている。</p>	<p>役所が近くにあり、運営推進会議に市担当者も参加している。利用者の相談や電話等で情報交換を行っている。会議などを通して関係づくりを心がけている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>学習会を開催し、法律や対応の知識を深めている。出入口の施錠は、なるべくしないようにしている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて学習会で話し合い、利用者が自由な環境で生活ができるように取り組んでいる。身体拘束をしないケアについて家族との話し合いを大事にしており、日中は鍵をかけないケアを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>学習会を開催し、法律や対応の知識を深めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は精神保健福祉士で、母胎病院で相談業務に従事していたため、各種制度についてはある程度の知識を持っているが、他の介護従事者は学ぶ機会は少ない。現在のところ活用している入居者はいない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項の説明文を用い、十分な説明を行い、契約の同意を頂いている。改訂に関しては、変更時に説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談に関する体制を整備し、重要事項の説明文にも明記している。面会、外出等時に家族の気持ちや考えを伺うように市、運営やケアに生かすようにしている。</p>	<p>利用者から日頃の生活の中で意見や要望を聞き、家族からは面会時などを活用し、管理者が直接要望を聞いている。意見や要望等を職員全体で解決できるように話し合い、運営推進会議でも報告し運営に反映している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>部署会や関連法人のグループホームとの合同ミーティング、管理者が出席する管理会議などを通じ、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>法人全体の管理会議を毎月開催し、代表者へ職員からの運営に関する意見等を報告している。管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとるように心がけており、勤務についてもできるだけ配慮し、職員との面談も行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務状況や各種学習会への参加等を考慮しながら、昇給や賞与の支給を行った。介護福祉士、ケアマネージャー等の資格取得時には、資格手当を支給している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人の教育委員会企画の研修や外部の研修に参加できるようにしている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県及び薩摩半島地区グループホーム連絡協議会に加入しました、市内の同業者と交流をするなどの機会を設けている。管理者が、今年度薩摩半島地区GH連絡協議会の役員になった。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居以前より、カンファレンスや体験利用等を通じ本人・ご家族のニーズ把握に努めている。環境変化に伴う動揺を少なくするために、家族関係機関の協力も頂きながら行っている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居以前より、カンファレンスや体験利用等を通じ本人・ご家族のニーズ把握に努めている。環境変化に伴う動揺を少なくするために、家族関係機関の協力も頂きながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が予定された段階で、本人や家族、関係者とカンファレンスを行い、課題検討した上でケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、畑仕事、洗濯の一過程を一緒に行ったり、昔話や世間話を通して自信や役立っているという実感につながるようなケアに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の一番の心のよりどころは家族であるという認識の基、家族の健康にも配慮しながら、不安や困っていることに応え、ひいては本人の健康や満足につながるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等との交流は、特に制限は設けていない。入居者によっては週に1~3回の面会があり、外出や外泊もある。	知人の訪問があったり、馴染みの美容室に行ったりして関係を継続できるように支援している。自宅や馴染みの場所への外出等は家族と協力してできるだけ希望に添えるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でゆっくりと過ごすという時間も大切にしながら、寂しくならないように他社との交流が図れるように共有空間を有効に活用している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も、いつでも相談に乗る旨を伝え、相談があった際は、応えるようにしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に、本人や家族から生活に当たっての意向を聞き、また、入居後は、普段の関わりの中で、思いが表現できる環境作りや機会を持つようにしている。表現が困難な方に関しては生育歴や、家族からの情報を活用している。	入居時に利用者の思いや希望を聞いており、困難な場合には家族から情報を得ている。日々の生活支援の中から意向を汲み取り、部署会等で話し合い情報を共有し支援しており、家族との話し合いをもとにして本人本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生育歴、家族構成、病歴などフェイスシートを用い聴取しており、職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なバイタルチェックを行いながら、必要時には主治医と連携し、状態把握と対策に努めている。有する能力については生育歴や普段の様子、言動から把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望や、職員関係者からの情報を元に、課題検討を行い、ケアプランを作成するようにしている。モニタリングは毎月行い、見直しや変更を行っている。	モニタリングは毎月実施し、現状を把握している。介護計画は、利用者の暮らしぶりをもとに、家族に面会時や電話等で話を聞いて部署会等で課題検討を行い、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、入居者状況チェックシート、介護支援経過記録等を活用し、日々の記録や、特記事項などを記録しケアや計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行き慣れた理髪店に行ったり、受診や買い物、墓参りなど、家族の協力も頂きながら、臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の雑貨店、魚屋、肉屋等の商店や、市役所、消防署等の公的機関などに一緒に買い物に行ったり、いざというときは、協力をもらいながら安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院や、協力医療機関と連携しながら治療を行っている。眼科や皮膚科などの治療は家族の意向を確認した上で、なるべく希望の医療機関で治療を受けられるように支援している。	希望のかかりつけ医への受診支援を行っている。母体医療機関が近くにあり、医師の往診がある。通院は可能な限り職員が対応している。協力医療機関との連携ができており、緊急時にすぐに対応ができ、利用者や家族にとって安心できる環境である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理に関しては、母体病院や協力医療機関の看護職員を通じ主治医と連携をとりながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、概ね3ヶ月迄は咳を残し、早期退院が出来るよう、面会等を通じ状況の把握や退院後の環境調整等に努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重要事項の説明文に、終末期への対応について説明文を明記し、同意を頂いている。現在のところ終末期対応はない。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応について、入居時に事業所の方針を示している。重要事項説明書に「利用者・家族の意向を尊重し医療機関と連携し必要な援助を行う」と、明記し同意を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>母体病院での学習会や、消防署職員の指導による救急蘇生法等の学習会を通じ、急変や事故発生時に備えている。また緊急時マニュアルを整備し有事に備えている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災報知器、自動通報装置を設置し、災害時に備えている。また定期的に消防署合同の避難訓練を行っている。自動通報装置には、近隣住民も登録しており、応援がもらえるようになっている。2階部分は職員のアパートとなっている</p>	<p>防災訓練は、昼・夜間想定で年2回実施しており、地域住民3名が自動通報装置に登録している。ホームの2階が法人職員の社宅になっており、緊急時の対応ができるようになっている。消火器の訓練や消防設備の定期点検も実施している。非常用の食料は備蓄しており、食料・水は近くの母体医療機関にもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>自分がされて嫌なことはしないようにし、言葉遣いには特に注意している。</p>	<p>事業所内の個人情報保護委員会にて人格の尊重とプライバシーの確保について話し合っている。日頃から利用者に対しての配慮した声かけなど特に気をつけており、必要に応じて部署会などで個人を尊重したケアの実践を確認している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>出来るだけ、自己表現が出来るように待つ、聴くということを大切にしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの希望を聴き、入浴や食事、排泄、外出など出来る範囲で、本人のペースに沿って柔軟に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	能力のある方は、本人の意志にお任せしている。自ら選択できない、着脱できない場合、本人に聞きながら身だしなみを整える等の支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い調査を行い、献立についてはなるべく入居者の希望を取り入れるようにし、献立の記録をとりながらバランスにも配慮している。調理は現在職員が中心に行っているが、調理の一過程や後片付けは可能な範囲で共同で行っている	献立も利用者の希望を聞き、庭の菜園で収穫した野菜を使ったり、食材購入も利用者と一緒に出かけている。利用者もできる範囲で食事の用意や後かたづけなど手伝ったりして、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立、食事・水分摂取量のチェックと記録を行いながら必要な量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは促し、出来ない方には直接支援している。歯科往診もあり、指導の下口腔ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿便意のある方には、その都度必要な排泄援助を行っている。入居者状況チェックシートを活用し、排泄状況を把握し、ケアに活かしている。	全居室にトイレや洗面所が設置されており、自分で自由に対応しやすい環境である。また排泄チェック表を作成し、適時に声かけを行いトイレ誘導で排泄の自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の摂取が十分になるようにし、必要な方には、主治医とも相談し、排泄コントロールに対する支援を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、毎日出来るようにして、入浴状況チェックシートを用いながら無理強いせず、希望に添った形で入浴援助している。	入浴は、毎日できるように準備がしてあり、入浴する時間も利用者の希望を尊重している。個別に入浴支援をしており、一人ひとりがくつろいだ気分で入浴できるように入浴時間の長い利用者に対しても配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムは大切に、日中はなるべく、覚醒しておけるよう、交流を促したり、個別に関わるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から渡される、薬の説明書を各入居者ごとにファイルし、必要時には活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や草取り、食事の後片付け、買い物、洗濯など、その方の状況に応じ、可能な範囲で役割と達成感ももてるようにしている。音楽が好きな方は、部屋に機材を持ち込み楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物、季節の行事、家族との外出、デイケア、病院受診、散髪等を家族の協力も頂きながら行っている。	週に2～3回食材購入や買物に近くの店等に出かけたり、ミカン狩りや花見・道の駅へのドライブなどにも出かけている。歩行困難な利用者も車椅子を利用して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している方はいる。所持していない方でも一緒に買い物に行き、洋服や雑貨、椿油を買ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は、希望時には職員が支援し、会話などされている。手紙でのやりとりはほとんど無いが、一筆本人が書き添える等している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は、ゆったりとした空間となるように配慮し、季節感が感じられるような、演出を感じられるようにしたり、行事の写真を掲示するなど、回想やコミュニケーションのきっかけになるようにしている。</p>	<p>全館がバリアフリーになっており、生活空間も広く開放感がある。また、利用者の作品や絵画・写真などの飾り付けがあり、利用者が落ち着いて生活できる環境になっている。中庭には花壇や菜園があり、居間には仏壇を置くなどの配慮がされ、居心地よく暮らしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>交流スペースは複数箇所準備し、気のあった利用者同士で過ごせるように配慮している。一人で過ごしたいといった希望も大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や慣れ親しんだものなど持ち込まれている。写真なども飾ってある</p>	<p>居室には本人の使い慣れた家具や家族の写真等が飾ってあり、安心して暮らせる配慮をしている。居室は洋室で、すべての部屋にトイレや洗面所・整理ダンスが備え付けられており、居心地よく過ごせるようになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フルフラット構造になっている。手すりの設置や、自室トイレなどの場所を掲示したり、ダンスから希望の服が出せるようにプレートに種類を書いたり、ベッドの位置を変えたりするなどし、なるべく自分で出来ることは出来るように支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない